超絶技巧！明治工芸の粋

村田コレクション一挙公開

平成26年
10月4日(土)～12月23日(火・祝)

～担当学芸員・河内えり子さんが語る展覧会の見どころ～

平成26年秋、佐野美術館では
「**超絶技巧！明治工芸の粋**」を開催します。
緻密な技と高い品格で世界の人々を驚嘆させた明治時代の日本の工芸品。
そのコレクションにおいて質量とも世界随一と称される
京都・清水三年坂美術館から、
七宝、漆工、牙彫、印籠、刺繍絵画など約160点を厳選し、
「超絶技巧」の世界を紹介する本展。
展覧会の見どころを、河内えり子学芸員に聞きました。

【自在】明珍≪蛇≫

当館で開かれる清水三年坂美術館の工芸コレクションの展覧会は今回で3回目ですが、今までとの違いは何ですか？

河内　過去2回は当館の企画により、七宝や金属工芸といった特定のジャンルに絞って紹介し評判となりました。今回は清水三年坂美術館が所蔵する明治時代の工芸品の全てを網羅する内容となっています。村田コレクションの各分野から名品を厳選して、(包括的に)広く公開する初めての巡回展です。

明治時代の工芸品が世界を魅了したのはなぜですか？

河内　明治に入り日本政府は、自らの国力や文化水準の高さを示す目的で、国を挙げて金工作家や蒔絵師等に優れた作品を作らせました。それらは万国博覧会などを通じて欧米諸国に輸出され高い評価を得ました。江戸時代に進化の頂点に達した工芸技術は、明治時代に到り世界を舞台に大成したのです。

世界を魅了した明治工芸が、日本国内では長らく評価されてこなかったのはなぜですか？

河内　そもそも明治の工芸品の多くは海外輸出向けに制作され、日本人が国内で名品を目にする機会はほとんどなかったからです。
そんな中、明治の工芸品の素晴らしさに着目したのが、清水三年坂美術館館長の村田理如(まさゆき)さんでした。欧米において、初めて日本の細密工芸を目にし驚嘆するとともに、海外へ渡った作品を買い戻すべく、四半世紀にわたり収集を続けています。

昆虫やカニ、竹の子やナスなど素朴なモチーフが多いのはなぜですか？

河内　私見ですが、世の中の人々を驚かせるためには一目で凄さが伝わる身近なモチーフが適していると考えたからではないでしょうか。事実、万博に並べられた作品を見た外国人は、写実表現のレベルの高さに驚愕したそうです。

本展は日曜美術館でも取り上げられ、当館での開催前から東京でも話題になっているそうですが、どういった点に着目すると展覧会をより楽しめますか？

河内　質感や香りまでもが漂ってきそうな牙彫の果物、ゾクッとするほどリアルに動く自在置物の蛇、轟く滝のしぶきや流れるような獣の毛並を繊細な絹糸で表現した刺繍絵画。どれも精緻で美しく、まさに『超絶技巧』の一言に尽きます。まずは、「ここまでやるの!?」との一言が思わずもれる、その凄さを一目ご覧いただきたいと思います。

Kogei
Superlative
Craftsmanship
from Meiji Japan

【牙彫】安藤緑山≪パイナップル、バナナ≫

ミューズクラブ会員　募集中

ミューズクラブでは、随時会員を募集しています。特典として、年間パスポート発行はもちろん、アートに親しめる美術館ならではのイベントも多数開催しております。
お気軽にミューズクラブ事務局(**TEL055-975-7278**)までお問合せください。

新規入会者(平成26年4月1日～8月31日まで)
正　会　員　石川祐史、小藪余志美、齊藤静雄、中川稔江、中村仁、林田磨磯、吉田学
ゴールド会員　佐藤博史、髙嶋裕昌、日野原大
※敬称略、50音順

Number 14 2014.09
佐野美術館賛助会ミューズクラブ会報
2014年9月号／第14号
発　行　日／平成26年9月1日　編集・発行／佐野美術館賛助会ミューズクラブ
〒411-0838　静岡県三島市中田町1-43　TEL:055-975-7278　FAX:055-973-1790　ホームページ:http://www.sanobi.or.jp

佐野美術館賛助会ミューズクラブ会報

ミューズ交歓

佐野美術館と皆さまをつなぐ

Number 14 2014.09
Muse Club Magazine
SANO ART MUSEUM

イベント情報 EVENT

平成26年度下半期　活動予定

歌舞伎座鑑賞
日帰りバス旅行

日　　程　平成27年1～3月のいずれか1日
会　　費　会員25,000円／一般30,000円
定　　員　40名(要申込・先着順)
演　　目　未定(昼の部11:00～15:30、1等席、お弁当付き)
集合時間　午前7:00
集合場所　お食事処「松韻」前駐車場

※ご予約は開催日の約2か月前から承ります。
　日程や演目などの詳細は郵送でご案内します。

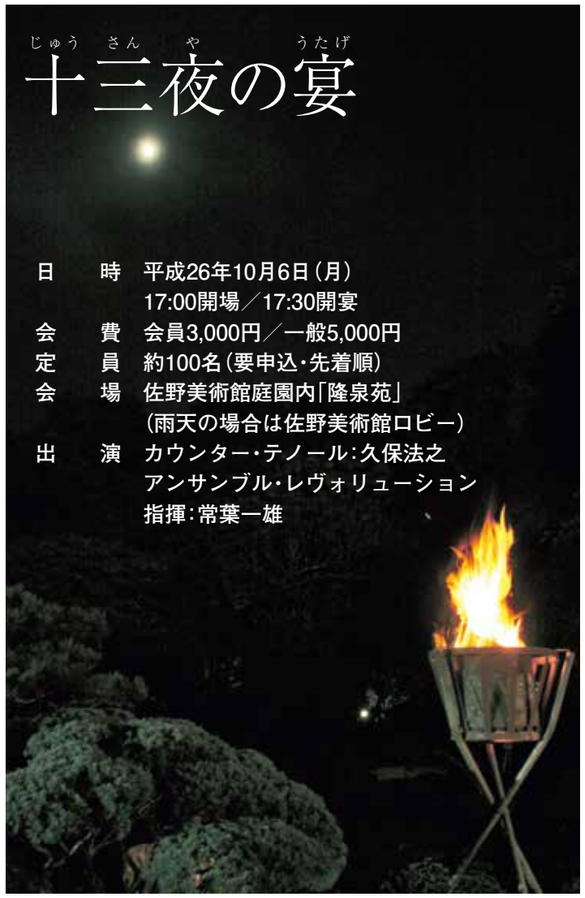
歌舞伎専用劇場として明治22年から現在まで続く歌舞伎座は、昨年４度目の立て直しが行われ、2013年4月に華々しくリニューアルオープンしたことが大きな話題となりました。
このたびミューズクラブでは、新歌舞伎座での歌舞伎鑑賞を盛り込んだ日帰りバス旅行を企画しました。毎年夏に開催している「芸術鑑賞日帰りバス旅行」の中で、国立劇場での歌舞伎をご覧になっていた会員の皆さまからは、「いつか本場の歌舞伎座に行ってみたい」とのご要望をいただいており、このたび歌舞伎座が新しく生まれ変わったことを機に、本イベントを実施することになりました。豪華な役者陣による優美で迫力ある舞台を1等席からお楽しみいただきます。
また、お芝居以外にも、歌舞伎の歴史を分かりやすく紹介したギャラリーや充実した関連グッズが揃うショップ、歌舞伎にまつわる記念碑が設けられた屋上庭園など見どころがたくさんあります。皆さまお誘いあわせの上、ぜひご参加ください。

平成26年度下半期　活動予定

イベントスケジュール

EVENT
イベント
情報

十三夜の宴（じゅうさんやうたげ）



日　　時　平成26年10月6日（月）
　　17:00開場／17:30開宴
会　　費　会員3,000円／一般5,000円
定　　員　約100名（要申込・先着順）
会　　場　佐野美術館庭園内「隆泉苑」
　　（雨天の場合は佐野美術館ロビー）
出　　演　カウンター・テノール：久保法之
　　アンサンブル・レヴォリューション
　　指揮：常葉一雄

ミューズクラブでは、毎年十三夜に“月と音楽を愉しむ演奏会”をテーマに屋外コンサートを開催しています。国の登録有形文化財である隆泉苑の庭園で、月明かりの下美しい調べをご堪能ください。演奏会後には、温かいお食事やお酒をご用意します。

カウンター・テノール　久保法之

鹿児島県立松陽高等学校音楽科、東京藝術大学声楽科卒業。大学卒業時に松田トシ賞、アカンサス音楽賞、同声会賞を受賞し、同声会新人演奏会、第83回読売新人演奏会に出演。第14回宮日音楽コンクール声楽部門入選。第33回飯塚新人音楽コンクール入選。第29回練馬区新人演奏会オーディション声楽部門優秀賞(第2位)受賞。これまでに声楽を、斎藤玲子、福井敬、上杉清仁、寺谷千枝子の各氏に、バロック歌唱法を、植野真知子氏に師事。古典派、ロマン派、近代、現代曲まで幅広くレパートリーを持つが、バロック音楽のカストラートの音域を歌える貴重な歌手である。

【カウンター・テノール】
西洋音楽における成人男性歌手のパートの一つで、女声に相当する高音域を歌う。カウンター・テナーとも言う。

アンサンブル・レヴォリューション

2013年、常葉一雄氏の主宰で、県内の演奏家を中心として結成。様々な楽器編成で、バロック音楽から現代音楽までの、幅広いレパートリーの演奏を目指す。今回は弦楽器4人とホルン、オーボエという編成で、ソリストにカウンター・テノール歌手 久保法之氏を迎え、バロック音楽を中心にした演奏を行う。

指揮　常葉（ときわ）一雄

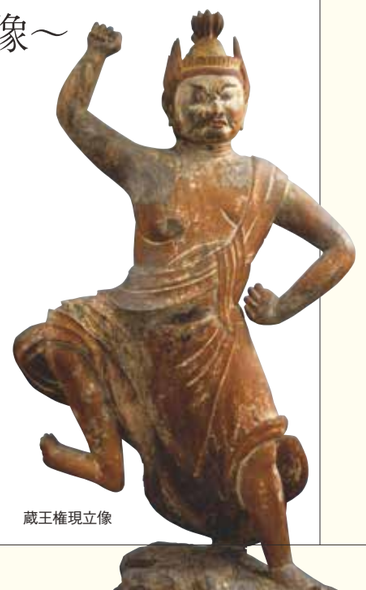
旧富士川町出身。桐朋学園大学演奏学科、パリ・エコールノルマル音楽院にてトランペットと指揮を学ぶ。1996年、バロック合奏団アンサンブル・デュ・ソレイユ(現ソレイユ・ルヴァン)を結成し、各地で演奏会を催し絶賛を博す。コミュニティFMラジオエフにて、クラシック音楽番組のパーソナリティーを務める。2013年アンサンブル・レヴォリューションを結成し、演奏活動を行っている。

館蔵品特別鑑賞講座～はじめての仏像～

日　　程　平成26年11月22日（土）
会　　費　1,000円（お茶・お菓子付き）
定　　員　15名（先着順・要申込）
会　　場　佐野美術館講堂
講　　師　志田理子（佐野美術館学芸員）
出品作品　金銅仏5点ほど（予定）

佐野美術館の常設展示室では、重要文化財の大日如来坐像、重要美術品の蔵王権現立像を展示しています。そして今年度より、平安時代の天部像が初めて公開されました。
これを機会に、館蔵品特別鑑賞講座では仏像編を開催します。収蔵品の金銅仏を題材に、鑑賞に役立つ基礎知識や鑑賞法を紹介します。仏像彫刻の入門編としてぜひご参加ください。

十二面観音立像



蔵王権現立像

平成26年度上半期　活動報告

イベントレポート

佐野美術館賛助会ミューズクラブ会報
ミューズ交歓
佐野美術館と皆さまをつなぐ

会員のつどい

日　　程　平成26年4月29日（火・祝）
時　　間　15:00～18:00
参加人数　48名

新年度の総会として「会員のつどい」が開催されました。平成25年度事業報告、26年度予算発表の後は、出し物として落語家の柳亭市弥さんが高座にのぼり、「牛ほめ」と「転宅」をご披露いただきました。見事な話芸に一同大笑い。懇親会では市弥さんも交えて会員同士の交流を深め、楽しいひと時となりました。

芸術鑑賞日帰りバス旅行

日　　程　平成26年7月3日（木）
時　　間　7:00～19:30
参加人数　86名

今年は午前中に東京国立近代美術館工芸館で所蔵作品展を見学し、昼食は浅草ビューホテルで中華のコース料理、午後は国立劇場で近松門左衛門原作の人情劇「傾城反魂香（けいせいはんごんこう）」を鑑賞しました。工芸館では所要時間をたっぷり2時間近く設け、人間国宝の作品や重要文化財に指定された赤煉瓦造りの建物を見学しました。国立劇場では、中村梅玉と魁春が魅せる夫婦の深い情愛や、不器用な主人公が幸せをつかむ姿に涙を誘われました。

MUSE 招待席

元 三島市長／ゴールド会員
奥田吉郎

三島市を巡る思い出の中、忘れ得ぬ一つに佐野美術館があります。
平成二年の春先の頃、山崎貞一理事長と渡邉妙子現館長が、美術館への支援依頼の件で市役所に来訪されました。
佐野美術館は、市が誇る文化の殿堂として広く活動されていますし、創設者の佐野隆一翁は、市の教育・福祉に貢献され、名誉市民として尊敬されて来た人物ですので、協力すべき課題と考えました。
しかし、市の財政上の問題がある上に、皆さんも不思議に思われるかも知れませんが、法の定めによって市が直接予算を支給出来ない仕組みになっているのです。
従って、工夫を重ね、美術館の入館券を市民に配布する方法で、新しい道を開くことになりました。
他にも、中郷用水路の整理に合せ、美術館の松韻側の入り口の整備、公衆便所の設置を目的とし、「トワレかわせみ」を新設しました。
尚、折角の機会でしたので、私も賛助会員制度を設けるよう提言しました。
美術館側にも、種々お考えがあったのでしょうか、ミューズクラブの発足となり、他の美術館では見られない充実した後援会制度が設立されたのは、快挙でした。
終りに、文化のため、市民のため、館の隆盛を願っています。